

經典餘師

論語

二

特36

515

論語朱熹集註

雍也第六

溪世尊譯

子曰雍也可使南面

雍ハ仲弓の御名前ヨシク南面トハ日輪南方真中ニ向陽徳盛なるの時なり上ニ立リ方ハ

仲弓問子桑伯子子曰可也簡

正しく南面して坐し君下ハ君の方へ拜し面ゆる北面の武士とハいふに聖人今仲弓の人品を称しつゝ実ニ君と位備て南面をゆるさる人なりとぞ

仲弓も聖人の我ニ南面を許し故子桑が事と序なき問奉まつる子桑も亦名譽の人なり御答子桑が行ひも簡にてや可と仰なり簡とハ身を妄し動さざ心安く言ひを尊大のある風儀なり可とハ大概によらざる

仲弓曰居敬而行簡以臨其民不亦可乎居簡

而行簡無乃大簡乎

仲弓見識をのべりて上ニ立人ハ敬を主とし身を敬めハ行なむを乱ぜ妄ならず其敬の場ニ居て簡の道を行ハる万民の上ニ臨小堪り亦可き不乎若始より簡の場ニ居て物を簡せんと犯さ大ニ簡ニ過て甚しといふりの

雍也第六

子曰雍也可使南面

仲弓問子桑伯子子曰可也簡

仲弓曰居敬而行簡以臨其民不亦可乎

簡而行簡無乃大簡乎

子曰。雍之。言然。

哀公問弟子孰為好學。孔子對曰。曰。好學。不遷。怒。不貳。過。不幸短命。死矣。今也則亡。

子曰。雍之。言然。聖人之言。不可及也。仲弓之言。如八。

子曰。雍之。言然。聖人之言。不可及也。仲弓之言。如八。

子曰。雍之。言然。聖人之言。不可及也。仲弓之言。如八。

子曰。雍之。言然。聖人之言。不可及也。仲弓之言。如八。



子曰。雍之。言然。聖人之言。不可及也。仲弓之言。如八。

子曰。雍之。言然。聖人之言。不可及也。仲弓之言。如八。

子曰。雍之。言然。聖人之言。不可及也。仲弓之言。如八。

哀公問弟子孰為好學。孔子對曰。曰。好學。不遷。怒。不貳。過。不幸短命。死矣。今也則亡。

子曰。雍之。言然。聖人之言。不可及也。仲弓之言。如八。

子曰。雍之。言然。聖人之言。不可及也。仲弓之言。如八。

子曰。雍之。言然。聖人之言。不可及也。仲弓之言。如八。

子曰。雍之。言然。聖人之言。不可及也。仲弓之言。如八。

子曰。雍之。言然。聖人之言。不可及也。仲弓之言。如八。

子曰。雍之。言然。聖人之言。不可及也。仲弓之言。如八。

ん乎

子仲弓と謂て曰まハ  
く犁牛之子騂（赤）にして  
且角ありハ用ること勿  
んと欲と雖ども山川  
其諸と舎ヤ

回ハ其心三月仁（不）違  
不其餘ハ則ハち曰小  
月に至る已（馬）而（矣）  
助字

季康子問仲由ハ政ど  
に從ケハ使可與子曰  
まハく由ハ果なり政  
とに從ぐ小に於て何  
う有ん曰く賜ハ政ど  
に從ケハ使可與曰ま

論語三十一

川其舎諸（仲弓の為人を論じて）古賢の無道なるも其子よ舜の聖人  
當時周の代の法小祭（用）牲ハ赤（赤）と用ゆきとひおヤハ犁牛なりとも其子  
騂（赤）にして角あり（用）用ゆ欲勿とぬりといふとれども山川の神  
靈受カハざらんヤ其捨（す）をある○山川の  
神を祭に騂牛と用ゆ犁ハ黒牛なり騂ハ赤也

○子曰回也其心三月不違仁其餘則日月至  
焉而已矣（仁ハ心の徳私欲をいふ仁ハ違ハざるハ天道の心ハ同一凡  
て心ハ活物ゆへハ動カ動カ誘ハざるなり動て誘ハざるハ難と  
凡顔回の如きハ常ニ心小存）仁ハ違ハざる三月といふ久きをいふ三月小ハあり  
ぞ其餘の衆中ハ或ハさやうなる曰とさやうなる月（の）隔ありて心付ときハかくの如  
至而已とぞ

○季康子問仲由可使從政也與子曰由也果  
於從政乎何有曰賜也可使從政也與曰賜也  
達於從政乎何有曰求也可使從政也與曰求

也藝於從政乎何有（魯の大夫季康子此三人を政務に用んと多し聖  
人へ御たづね申奉まつる子細ハ御門人仲由  
と政務に從使て可んやいふこととなり御對左の通なり果といふこと訓て早く事  
このき決断の持あり事よてたとハ大岡越前氏の如き人をいふ右子路ハ果なる生  
付ゆへ随分と政務にうけて何の致）りぬる事有やとつる賜ハ子貢の名なり子  
貢ハ生徳達なり達とハ物の理に通ゼ）人よとく大久保氏の如き人なり再求ハ藝  
なり藝とハ才能熊沢氏の如き人なり何も  
政務に於て皆その徳あると答ふことなり

ハく賜ハ達なり政ど  
に從ぐ小に於て何  
う有ん曰く求ハ政どに  
從ケハ使可與曰まハ  
く求ハ藝なり政どに  
從ぐ小に於て何う有  
ん

季氏閔子騫を使費の  
宰爲使閔子騫の曰く  
善我爲ハ辞セよ如我  
を復する者有ハ則ハ  
ち吾必ぞ汶の上小在  
ん

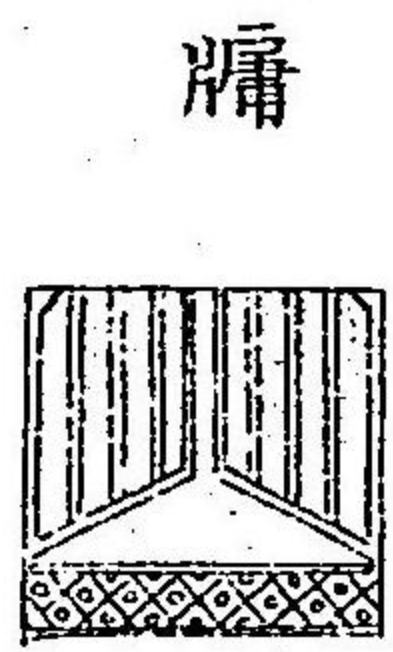
伯牛疾有子之と問牖  
自其手と執曰まハく  
之を亡ハん命矣夫斯

○季氏使閔子騫爲費宰閔子騫曰善爲我辭  
焉如有復我者則吾必在汶上矣（子騫ハ顔淵に亞て德行  
の名ある御人なり時に  
魯の大夫季氏その徳を尊）曰ケ城下費といふ所の宰にるさんと使者を以て之を招  
く然るに使者に答ふやハ我決）て出て事の意なりとく我よかりて此  
事を辞退い）下さる）如復我を招りる事有ハ吾家を捨て身を隠）齊  
の汶水といへる川の上立去べ）と季氏が如き不忠の人富貴をうむるも從  
ことを欲せ其國に居て權門に對せと  
いふ其詞の直なる事かくの如

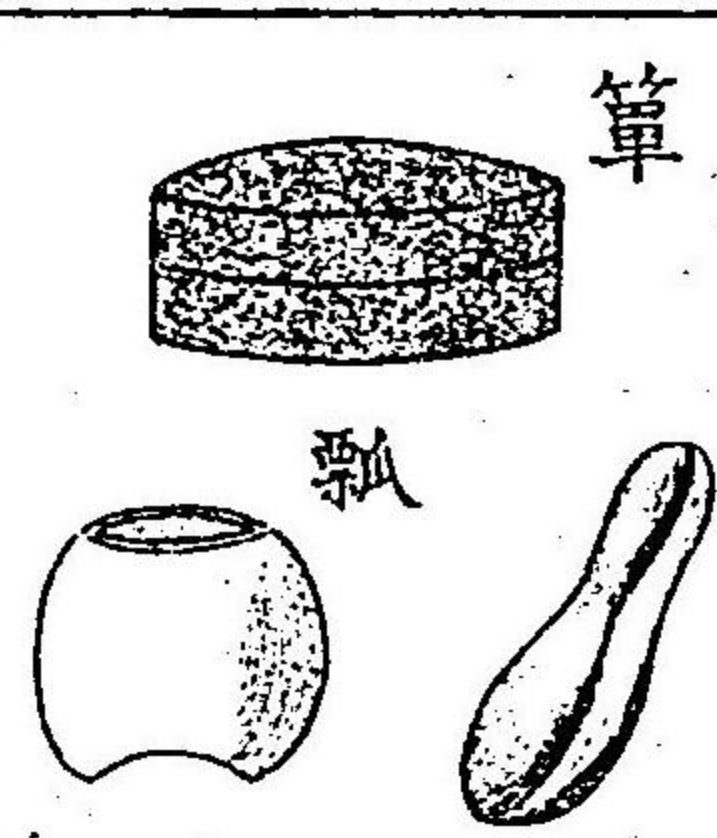
○伯牛有疾子問之自牖執其手曰亡之命矣

論語三十一

人として斯疾有斯疾有斯疾有斯疾有



子曰まはく賢るる哉  
回一簞の食一瓢の飲  
陋巷小在人ハ其憂  
堪不回ハ其樂を改  
め不賢なる哉回



夫斯人也而有斯疾也斯人也而有斯疾也

伯牛も徳行の人なりあつたに不幸にして悪病を受たりあるは癩病なりとも  
言ひ聖人憐れむてあつたを訪ひて礼法を君とて病客南の牖の下に  
移して君を南面して坐せしむるは尊とて此故に聖人敢てこの尊敬を受ぬは  
て外より其手を執て御挨拶あり然るに疾最も重く免ざるを嘆ひて曰はく  
今度ハ誠亡之へき命矣いふも天命薄くして深く惜べき事なり  
也や實に斯人として斯の疾あつんとハ思ハざと再びのふなり

○子曰賢哉回也一簞食一瓢飲在陋巷人不

堪其憂回也不改其樂賢哉回也

顔回ハ世に事せ家貧  
常一陋巷に在り  
若世上通用人なるは中へみまへくつきて其心憂は堪不まへくつ  
顔回ハ道を樂し行を改めぬを實に賢徳ある哉と再びのふなり

○冉求曰非不説子之道力不足也子曰力不

足者中道而廢今女畫

冉求曰く子之道を説  
ば不不非力不足也  
子曰まはく力不足者  
ハ中道に——て廢せ  
今女畫

子曰夏に謂て曰まは  
く女君子の儒と爲小  
人の儒と爲と無

子游武城の宰と爲子  
曰まはく女人を得  
る者有行は徑小由不  
公事に非ざるハ未  
嘗て偃之室に至未

へつとところ元より難有説て然とも吾等不才の及所あるを實に力  
不足なりとぞ聖人聞めぬハ凡て力不足なりとて自己に畫心してしてハあ  
るべき智もさうなかりたといハ関東へ行んは猶根山邊にて廢なハ何の益あり  
ん中道に廢とハ是なり厚志とて學とのハその智のむけ至処のものなりと  
大學より已よの如く義に當ると好んで  
を爲し其事の終る事ハなきものなりと

○子謂子夏曰女爲君子儒無爲小人儒

學者を凡て儒といふ儒といふも訓て身を聖人の道にむくもとの義なりとて君子  
の學小人の學とて外に分かれ君子ハ己が身の爲にせざるは操行を正し義理を  
尊なり小人の學ハ人よりかりりて爲となりあるはハ利  
を貪るもハ名を好むの皆てその利欲より出ると

○子游爲武城宰子曰女得人焉爾乎曰有澹

臺滅明者行不由徑非公事未嘗至於偃之室

也子游此時武城といふ所の宰となきり聖人の仰せらるるハ武城の地を治る  
と曰く下を治るハ徳有人を引挙て用るに如かなる女賢人を得たり焉  
再乎と對て曰く領分下氏を澹臺と申名を滅明といへる人あり常は道を行ふは  
なう徑を由となくして公邊の事の外となくして

内意ハハたゞ今まで拙者ガ室へ論至など申と嘗てな〜となり此を以て見る時ハ君子私なれハの氣象ゆゆとせよとに子游の心ぞぬくゆ〜

○子曰孟之反不伐奔而殿將入門策其馬曰

非敢後也馬不進也孟之反ハ魯の大夫なり功ハ伐ぬ人物もて聖人

○子曰不有祝鮀之佞而有宋朝之美難乎免

於今之世矣當時世也とろく免ハ角諛語を以て務とせし事を嘆ぬなり

○子曰誰能出不由戸何莫由斯道也人道を離てハ

○子曰質勝文則野文勝質則史文質彬彬然

後君子山奥行田舎の者ハ質付のよりに生育ゆ〜正直朴一偏〜野さりのな

○子曰人之生也直罔之生也幸而免人の世は無事

○子曰知之者不如好之者好之者不如樂之

○子曰中人以上可以語上也中人以下不可

る

孟之反伐不奔而

て殿將入門策其馬曰

非敢後也馬不進也

バ也

祝鮀之佞有不

宋朝之美有也難乎

今之世に免く

誰能出るに戸

不何ぞ斯道に由と莫

質文は勝バ則ハち野

る文質は勝バ則ハ

ち史なる文質彬彬と

して然して後君

子なり

人之生ハ直罔之

生ハ幸に

之を知者ハ之を好む

者に如不之を好む者

ハ之を樂む者ハ如不

中人以上ハ以て上を

語可

中人以下ハ

不可

論語

五

論語

五

論語

五

論語

五

論語

以て上を語す可く

樊遲知を問子曰まハ  
民の義を務む鬼神  
と敬して之と遠ざ  
く知とゆる可く仁  
を問曰まハく仁者ハ  
難を先にして得る  
と後ま仁と謂可

知者ハ水を樂む仁者  
ハ山を樂む知者  
ハ動く仁者ハ靜さう

以語上也

凡そ人の過ハ危うく人の氣量を計ぎて付違ぐゆへ先才智  
ありて中より以上の人物ハ打上る事と語などいへて  
可り中より以下の者に打上る語ハ爲可く不となり唯耳小入るのみ  
なりて却て詭と得事なり和歌ハ我ハ齊人なりなるをバトハ是なり

○樊遲問知子曰務民之義敬鬼神而遠之可

謂知矣問仁曰仁者先難而後獲可謂仁矣

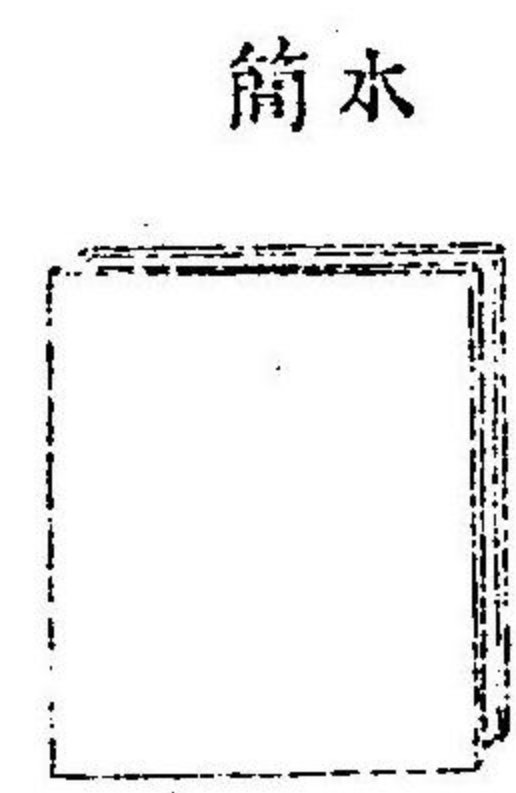
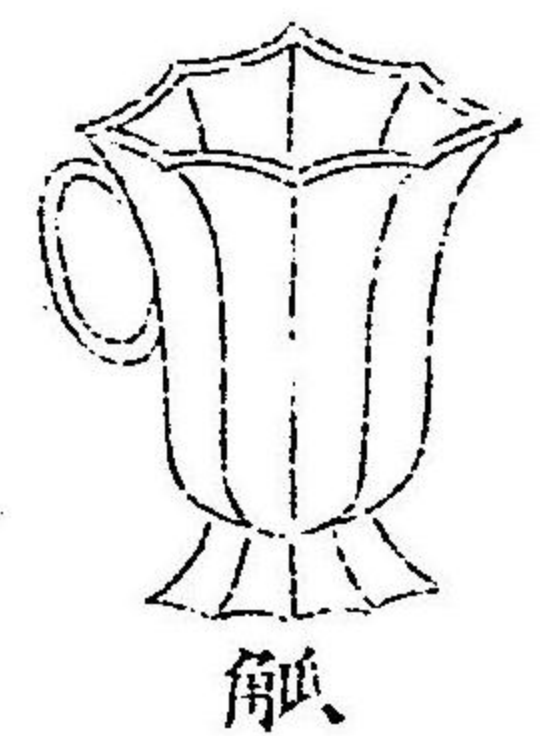
樊遲知と仁との二ツを問奉まつり御昔知とゆる者ハ民の義を務るなり義と  
宜と相通ざるなり人々行て宜きを務むと臣とる者ハ忠を務るなり孝を務  
め凡そ家業を大切し務む時ハこころは悔となく心の悔るといふ事ハ皆始し務む  
て息とに依てなりまこころは悔かゆへハ鬼神を弄玩けの事となり然るに人  
の義を務むて心悔段ハ鬼神へ立ちまこころは悔かゆへハ皆感なり鬼神ハ敬むるを以て道  
とて押近づくは是を遠ざけまこころは悔かゆへハ仁とハ各人の行ひ尽へさ道と務  
むとと務め難なるハ惡し而して其根ある事ハ自然待へ私心あるハ  
道とありて此事ハ易小ありまこころの故ハ難を先へ行ひ尽へ報を獲ると後  
まこころハ此の如く是を仁と謂

○子曰知者樂水仁者樂山知者動仁者靜知

知者ハ樂む仁者ハ壽

子曰まハく齊一と  
妾して魯に至らん  
魯一と妾して道  
一に至らん

觚觚なる不觚なる  
哉觚なるん哉



者樂仁者壽 知者ハ知ハ理に達し万事ハ滞る事なく流ぐ如きゆへ  
故に苦くまぞ依て動とも樂ともいふなり仁者ハ仁ハ本心を得て義理ハ一身  
安に付大に依て重く故に山ハ比せり依て山を樂むとハいふ仁者ハ心を安  
ぞるがゆへに靜なりといふまこころを煩ざりゆへ  
命壽とハいふなり仁知を説くまこころに至るに尽せり

○子曰齊一變至於魯魯一變至於道

魯の二國ハ聖人の後にして他の國ハ異なりある齊の國ハ大公室の後胤  
て大賢の人なりとりくども戰伐法令の武威殘り道桓公覇者となりて武威政道の風  
俗殘る故に祖にして人情ハ背まざる魯ハ聖人周公の後胤にして禮を重し信義  
を崇む故に風俗徳を好む兩方共今小國風破れれども右の訳ゆへ他の國風とハ異  
なり齊一と能方ハ魯の如くなる魯  
一と妾さバ右の如く道一と

○子曰觚不觚觚哉觚哉

形よほど違ひ妾して今いふ觚ハ稜なり此ハ觚とハいふくども實ハ不觚と  
ハ君臣父子の名ありとも君ハ不明臣ハ不忠父ハ不慈子ハ不孝なりバられ君臣父子  
といふの理ありん哉と

宰我問て曰く仁者之  
告て井小仁有と曰  
と雖ども其之に従ん  
や子曰まはく何爲ぞ  
其然らん君子ハ遊  
む可一陷りる可  
ら不欺く可一罔可  
ら不

君子ハ博く文を學で  
之を約するに礼を以  
て亦以て畔り弗可  
夫

子南子と見子路説  
不夫子之矢て曰

○宰我問曰。仁者雖告之曰井有仁焉其從之

也子曰。何爲其然也。君子可逝也。不可陷也。可

欺也。不可罔也。

○子曰。君子博學於文。約之以禮。亦可以弗畔

矣。夫君子ハ先學て博を窮べ。然ども妄ハ博く學て文書ハ涉て其肝要の約な

○子見南子。子路不説。夫子矢之曰。予所否者

まはく予が否とざる  
所の者天之を厭ん天  
之を厭ん

中庸之徳爲其至き  
乎民鮮きと久矣

子貢曰く如博く民小  
施して能衆を濟と  
有ハ何如仁と謂可乎

子曰まはく何ぞ仁を  
事とせん必也聖乎堯  
舜も其猶病人諸

天厭之天厭之

○子曰。中庸之爲徳也。其至矣乎。民鮮久矣。

○子貢曰。如有博施於民。而能濟衆。何如可謂

仁乎。子曰。何事於仁。必也聖乎。堯舜其猶病諸。

子貢仁の工夫ありその曰や。如博く万民ハ恩沢を施し及して猶不足なきや。能衆を濟ハ仁徳と謂可や。御者は程の廣大なる事ハ中く仁ととるべし。是必也聖人の大徳なり。古の聖人堯舜帝舜も此事に御心を勞ひ。施し能濟といふ事成難しんかの聖人も猶常よりこの病と思召なりん諸。



夫仁者ハ己を立んと欲して人を立己を達せんと欲して人を達せしむるを達せ  
能近く譬と取を仁の方と謂可已

速而第七

子曰ハク速ク作シテ不信ト好シ古ヲ竊ニ比ス我レ老彭

黙して之を識して厭ハ不人ト誨テ

夫仁者己欲立而立人己欲達而達人

能近取譬可謂仁之方也已

速而第七

子曰速而不作信好古竊比於我老彭

道とさなる者ハ私ハ作爲なき事ハ私ハ皆是古ハ大聖の御方天地の鬼神陰陽の道を法として制作あり今古への道を速而のくして自作のハ不との御詞なり人の賢人ハ老彭といひる人ハ古への道を尊く好て聖人の道を世の中へ速傳一人なり依て自己の仰も深く身を退らして手前も竊此の心ぞに比となり我國我郷なり

○子曰默而識之學而不厭誨人不倦何有於

我哉

○子曰德之不脩學之不講聞義不能從不善不能改是吾憂也

○子曰德之不脩學之不講聞義不能從不善不能改是吾憂也

○子之燕居申申如也夭夭如也

○子曰甚矣吾衰也久矣吾不復夢見周公

凡そ人壯なる時ころころと思ひつめ事ハ不知所の人をも夢見のなり聖人常一五帝三王の法を説のむ最とも周公ハ大徳全備の御方ゆへ常にその人を見ゆるめ故に年壯にあつせむし時ハ夢を見ゆる見ゆる事ハ此段ハ年老らむころころ時假そめの御詞なり吾近ころころ衰甚矣と見ゆる久矣周公と夢見る事あり

夫仁者己を立んと欲して人を立己を達せんと欲して人を達せしむるを達せ

倦不何ぞ我ハ有とせん哉

徳を脩不學と講せ不義を聞て徒と能ハ不善を改むると能ハ是吾憂也

子之燕居申申如也夭夭如也

甚矣吾衰も久矣吾復夢見周公を見不

道志ざり徳據  
仁は依藝に游

自束脩以上と行へば  
吾未嘗て誨ると無  
バあり未

憤セ不バ敢セ不排セ  
不バ發セ不一隅を舉  
る小三隅を以て反さ  
不ハ則ハち復セ不

○子曰志於道據於徳依於仁游於藝道とハ今目人  
の行べき者を

りふなり志ざりとハ心とあり寄歸する時ハ他の惑なり徳とハ得とあり字の心  
なり道理を心と得てそれを執據てゝゝるハざるなり仁とハ私の心なきをいふそ  
の清き場と心を依て置なり藝とハ不法樂府射藝馬御書筆算數の藝等を手玩を游と  
いふ此段人の學問をなせ心持なり先學問ハ志ざりと立るふありさく徳據ハ心  
を失ふハ仁に依と死ハ利欲心のりやと行自然となり夫より  
六藝を手玩てこころは適とハ樂めバ自然と寛大の場へ入るこころ

○子曰自行束脩以上吾未嘗無誨焉此段ハ聖人の  
人をいふも

善道へ導引する事切なりたとハバ浮氣ふも學とさく唱て來るバ猶豫なく苦く教ぬ  
ハざる事なりとあり束脩とハ始めて來る時の進物なり至て輕薄なるふたとハ束脩  
を行來入門とさく唱以上の人ハ吾嘗より誨るとの無事  
ありざるとハ束脩ハ脩さるふくを束ぬるものなり

○子曰不憤不啟不排不發舉一隅不以三隅

反則不復也門人を教ふるの道は弾て放さるの法とてたとハバ弓を教ふる  
先弓と張矢をもち身を正して心を持さるハ師のありゆる

所なりとハ的の向て機をもちハ學者の手練ありと憤とハ學術の工夫に於  
て心ハ大方に通せざるとも今少といふも得るこころと師とる者は是を教く

非とハ自己の心と合点とありと思ふも口は遠んとして言迷りぬ位を師  
より其理を發せらるなり凡そ師より一の隅を引舉て示時ハ學者三の隅有ると悟反を  
程とありしてハ重て説くも益無  
ゆへに則ち復セ不と仰せらるなり

○子食於有喪者之側未嘗飽也

聖人常に親の喪有るに出合その側は相伴するとなさるなり時ハ  
其人の哀とさる一嘗も食を并べ飽と遊バさる

子於是日哭則不歌聖人喪ある家哭つたその日に於てハ  
其哀情を忘るハで歌ふことなかり

○子謂顏淵曰用之則行舍之則藏惟我與爾

有是夫顏淵へ御物語ハ今も奉用する時ハ出て志ざり行なひり  
用ひらるるされハ藏て道を樂べ此事於てハ惟我と再と深く是意

子路曰子三軍之行

ハ誰と與ハハ三軍とハ多人數なるをいふ一軍の數二万二千五百

人なり此段ハ子路勇を以  
てハ自得するとの心なり

子食於有喪者之側  
未嘗飽也

子於是日に於て哭  
まれば

子謂顏淵曰用之  
則行

行なひ之を舍と  
ハ則ち

是有夫

子路曰子三軍之行  
ハ誰と與

ハ誰と與ハハ三軍  
とハ多人數

子曰まハク暴虎馮河死して悔ここ無者ハ吾ハ與セ不必也事小臨て而して懼と謀とと好で而して成者也

富にて求む可ハ執鞭之士と雖も吾亦之を爲如求む可ハ不ハ吾好む所に從ハむ

子之慎む所ハ齊戰疾

子齊小在網と罟と三月肉の味は知不白ハ斯一至んとハ

冉有曰く夫子衛の君を爲ん乎子貢曰く諾吾將之を問んと將

子曰暴虎馮河死而無悔者吾不與也必也臨

事而懼好謀而成者也聖人因て説く九死之病の士ハ命を惜て死を懼る血氣の勇士ハ命を輕く生を重く也明智の將君を重むるの器量ハ社稷の爲に輕く死を果す必也一大事に臨てハ懼つてハ子細ハ國家の亡と存と人數の生と死と百姓の安危と一人の故あり虎を手にて暴河を徒馮ると死を懼るを悔さるのハ君子與ハ義經公暴風をあのごて海上と渡るハ一人の理異なり軍旅ハ元より君子の極さる武田信繁の言ハ敵近くなるハ人數と急小荒つつと一條の室氏其の量と知り先生も又與ゆ謀と好むと至てハ口の迷る所也諸葛政公草廬と出さる時已に定の謀と好むを以て世に出し君を危め惑える

子曰富而可求也雖執鞭之士吾亦爲之如

不可求從吾所好俗情多くハ是ハありそれゆり神仏の惑

子曰富而可求也雖執鞭之士吾亦爲之如

子曰富而可求也雖執鞭之士吾亦爲之如

子曰富而可求也雖執鞭之士吾亦爲之如

子曰富而可求也雖執鞭之士吾亦爲之如

子曰富而可求也雖執鞭之士吾亦爲之如

子曰富而可求也雖執鞭之士吾亦爲之如

子曰富而可求也雖執鞭之士吾亦爲之如

子曰富而可求也雖執鞭之士吾亦爲之如

子曰富而可求也雖執鞭之士吾亦爲之如

子曰富而可求也雖執鞭之士吾亦爲之如

子曰富而可求也雖執鞭之士吾亦爲之如

子曰富而可求也雖執鞭之士吾亦爲之如

子曰富而可求也雖執鞭之士吾亦爲之如

子曰富而可求也雖執鞭之士吾亦爲之如

子曰富而可求也雖執鞭之士吾亦爲之如

魯國の晉は八蒞を國へ入ん  
とてその時の乱をなす

入曰伯夷叔齊何人也曰古之賢人也曰怨乎  
曰求仁而得仁又何怨出曰夫子不為也

入て曰く伯夷叔齊ハ  
何人ぞ曰まはく古  
之賢人也曰く怨  
乎曰まはく仁を求  
仁を傳ふ人又何  
怨ん出て曰く夫子為

その心なきや御者小何ぞ怨といふ事ありん何れ仁の明なるを  
子貢心は思ふやう聖人必も輕が如き不孝の人ハ與ハレハ  
物語せしむ  
かくの如し

子曰飯蔬食飲水曲肱而枕之樂亦在其中  
矣不義而富且貴於我如浮雲

子曰まはく蔬食と飯  
水と飲肱と曲て  
之を枕といふ樂も亦其

此段聖人義理の重きを示し疏なる食物を飯となし水を飲り  
を曲て枕とせしかく不自由なる身も義理は叶ハレハ樂なるや假令家富貴  
とも不義の榮ハ天人ともに思はざる事なりとぞ  
いとそれバ無が如くたしうなる事なりとぞ

子曰加我數年五十以學易可以無大過矣

聖人といへども易ハ窮やその事なり此時聖人已ハ七十小近ハ願ハクハ  
今より年數を歴て此道は心を尽し學ぶなりバたとく知得と能ハ不とも大なる過  
失無ふはまよひハあらんの心とぞ今の世は僅にふせざる物を計るもの戯を  
以て自己易ハ通ゼしと思ひまは是等の事ハ生産の事を定めありんとぞ愚者  
こそ實ハ易を穢  
といふのなり

子所雅言詩書執禮皆雅言也

葉公問孔子於子路子路不對

本文の五十の二字ハ  
卒の字のあやまりと  
子の雅言のゆゑ所  
ハ詩書執禮皆雅言  
なり

葉公孔子を子路子路  
子路對不

葉公ハ魯の國樂といふ  
所の縣の尹なり自己

借上よりて公とひしなり聖人の人爲を知らざるなり故に子路への問なり子路對たまは誠一聖人の大徳言速がさか故なり

子曰。女奚不曰。其爲人也發憤忘食。樂以忘憂。

不知老之將至。云爾。爾。聖人之を聞召ひて子路へ仰せ公吾事と女奚ゆへ有の俸を以て對曰さ

として自説て曰。吾人爲ハ常一天地の道をたのしむ志を厲し若其理を得ざる時ハ憤を發して食事を忘るじ得る時ハ樂しくたぐむて心憂といふ事

を知らざるかくの如し。て年の老をを不知。これ吾常なる奚ゆへ。再ハ云さん

○子曰。我非生而知之者。好古敏以求之者也。

聖人。言人。吾を生かざる。天地古今の事一通。知ると思ふ。中。左。非。我。古。昔。の。大。道。を。好。く。敏。く。学。び。て。以。て。心。を。求。め。り。な。り。つ。い。一。朝。の。能。い。ハ。あ。る。と。誠。に。聖。人。と。生。か。さ。る。知。所。の。物。ハ。義。理。な。り。禮。樂。文。物。の。名。等。ハ。あ。ら。う。学。ぶ。に。て。さ。と。り。の。理。な。り。

○子不語怪力亂神。怪。人。常。此。四。つ。の。事。を。物。語。り。ハ。せ。と。其。の。條。ハ。俗。に。て。勇。力。血。氣。の。う。ハ。さ。し。詩。と。或。ハ。世。の。盛。衰。の。く。乱。已。が。あ。ら。う。く。ぬ。と。や。と。ハ。一。切。神。仙。の。事。等。と。此。四。つ。ハ。是。る。疑。を。い。と。き。直。に。益。の。な。き。物。故。に。か。く。ハ。有。ら。ず。

子怪力亂神と語不

子曰。女奚不曰。其爲人也發憤忘食。樂以忘憂。不知老之將至。云爾。

我生て之を知者に非

ぞ古へを好く敏に

て以て之を求る者也

子怪力亂神と語不

三人行ハ必我師有其善者を擇て之に従グ其善不着ハ之を改む

天徳を予小生と桓魋其予と如何

子曰。三子子我以爲隱乎吾無

行而不與二三子者

是丘也

○子曰。三人行。必有我師焉。擇其善者而從之。其不善者而改之。凡そ學問ハ善事を見てハ齊しむ事を願ひ不賢なり。道を學ばん。二人の説の附合し。則ち吾師と爲る。善者を擇て之に従べ。不善をハらざる。改て宜し。

○子曰。天生德於予。桓魋其如予何。桓魋と云ふ。愚人

○子曰。二三子以我爲隱乎。吾無隱乎爾。吾無

行而不與二三子者。是丘也。御門人の心何れも竊らざる。室

必我我を以て隱と有りと疑ふべからず。疑ふは依て仰せらる。二三子

吾朝夕起居進退物と交る。他教ハ非ざる事なり。行なふところ

二三子の輩と與る者なり。道ハ人の日々行なふの外あり。丘とぞ

子四を以て教ゆ文行忠信

聖人吾得て之を見不君子者之見を得て斯可なり

善人ハ吾得て之を見不恒有者を見を得て斯可なり

亡して有と爲虚あるふして盈と爲約あるふして泰なりと爲難ららん乎恒有と

○子以四教文行忠信聖人常此四ヶ条を以て教ふる先聖賢の文を讀べし身の行を脩むべし知と行

○子曰聖人吾不得而見之矣得見君子者斯可矣聖人の徳ハ世に乏しく見とを得ざるとせめてハ君子の徳ある人を見

子曰善人吾不得而見之矣得見有恒者斯可矣上の意ハ同じくせめて善人を見と不得とも恒有者を見ハ可矣となり善人

亡而爲有虚而爲盈約而爲泰難乎有恒矣凡て實なき事ハ上向をとり飾とのハ恒の節操有とハいふべし徳亡而有げハ爲

子曰釣而不綱弋不射宿聖人ハよき御窮年の時家貧あり其

類の人ハ恒ハ節操を失ハむとハ申難し

子釣して綱セ不弋

綱ハつち之綱を引て網をとり其場所をえさうして取つても物

蓋し知不して之と作者有人我ハ是無

多聞て其善者を擇み而して之は能ハふ多く見て之を識ハ知之次也

○子曰蓋有不知而作之者我無是也多聞擇其善者而從之多見而識之知之次也聖人自ら卑下してかく謙讓の道を示し人より明を盡し物を正さば

○子曰蓋有不知而作之者我無是也多聞擇其善者而從之多見而識之知之次也聖人自ら卑下してかく謙讓の道を示し人より明を盡し物を正さば

○子曰蓋有不知而作之者我無是也多聞擇其善者而從之多見而識之知之次也聖人自ら卑下してかく謙讓の道を示し人より明を盡し物を正さば

互郷與言難

子見門人惑

其進を與も其退ぞく

と與さ不唯何そ甚ハ

と一一人已を潔よく

して以て進む其潔

よさよ與も其往を保

不

子曰まはく仁遠く

ん哉我仁を欲せれハ

斯仁至る

参考て其善者を擇むとく多く擇見て其選らざる者識となり  
未だ實に其理を尽さぬとも識者能智の人の次とハいふべし

○互郷難與言童子見門人惑

柄なり然る小童子一人聖人へ謁見願ひまひり  
小早速御逢あり依て門人衆こころは感あへり

子曰與其進也不與其退也唯何甚人潔己以

進與其潔也不保其往也

改めて道に進ハ其志は與もさかたう其退くハ其志は  
何れもさかたう人誰人してもし心潔よふして進む来ハその潔き所を  
を與もさかたう往行するをいふまでもこころ  
は保ち留るこころハなまよふことぞ仰らる

○子曰仁遠乎哉我欲仁斯仁至矣

心ハ動さずやむく散やむく人ハ心をもとらむる事なく欲ハ動ゆへ道理を踏と  
能ハざるなり仁ハ本心の全徳なり人之を求むる事難よふはさふなり聖人曰まはく  
仁の徳何れも遠方不在のものとて求め難し  
とまらや我仁を求人と欲ハ早速斯へ出来ると矣

○陳司敗問昭公知禮乎孔子曰知禮

陳の國にて司敗といふ官なるが名ハ分明なる魯の君昭公の事を聖人へ  
問奉るなり昭公ハ礼を知りとの御答ハ聖人吾國を重むるの至なり

孔子退揖巫馬期而進之曰

吾聞君子ハ黨セ不と  
君子も亦黨セ不と  
英も取る同姓なるが  
爲し之を吳孟子と謂  
君もして礼を知ら  
孰り礼を知らん

吳爲同姓謂之吳孟子君而知禮孰不知禮

司敗の詞ハ吾兼て聞君子ハ周くして偏より從黨ハハハとこそ今聖人ハ  
ハ不義なる魯の昭公をとも礼を知るとの最負あるを見てハ君子も亦黨ハハハ  
元魯と吳とハ同姓の血脉ありて管叔をなまきさ理る魯と吳とハ周の血脉ハ  
して姫姓なり然るに魯の君吳より妻取らして姫姓を名來てハ目ハ立ゆへは姫を  
やめ吳孟子と唱て子姓のやうに聞をなす礼を不知者なり

巫馬期以告子曰丘也幸苟有過人心知之

巫馬期も答る能て聖人へかくと告奉る然るに聖人御答小誠ハ吾過  
てぞ有ん尺て過といふ者多ハ知るぬ勝りて通るゆへ改るといふをなす我ハ幸な

さ者、過ちあはるる人、知りて告ぐるなり。とぞ仰せり。人々も主君の事と語り、忍んや

○子與人歌而善必使反之而後和之

聖人常の御挙動を見たりて記す。誠、聖人の御氣象、容、態、ふるも也を見らる。聖人と與人と與、歌て、面白善と思召すと、ハ今一反、反さ使て後より和、い、の、め、り、

なり和とハ一処、ついで、誠、覚、ゆること

○子曰文莫吾猶人也躬行君子則吾未之有

得、此聖人謙退の御詞、文とハ礼樂の文をい、自、の、宣、ハ、口、ハ、詩、書、を、説、或、ハ、礼、樂、及、て、ハ、吾、他、人、の、猶、く、莫、と、い、く、心、ハ、其、場、へ、も、行、へ、い、と、思、ふ、な、り、

ハ誠、得、る、もの、有、未、と、い、ふ、

○子曰若聖與仁則吾豈敢抑爲之不厭誨人

不倦則可謂云爾已矣公西華曰正唯弟子不

能學也、此亦謙退の御詞、吾中、聖人の場、処、と、仁、の、道、と、の、若、ハ、及、も、な、き、こ、と、な、

若聖と仁與ハ則ハハ、吾豈敢てせん抑く之を爲で厭ハ不人を誨て倦不則ハハ再云と謂可已公西華曰く

正、唯、弟、子、學、を、能、不、

子の疾病、子路、と、請、子、曰、ま、ハ、

有、諸、子、路、對、て、曰、く、之、

の、神、祇、に、禱、子、曰、ま、ハ、

丘、之、禱、を、久、矣、

奢ハ則ハハ不孫、儉、ハ、則、ハ、固、

なく人、及、て、倦、勞、と、い、ふ、是、理、道、の、事、ハ、再、く、と、云、と、謂、可、已、公、西、華、の、學、で、得、る、こ、と、な、り、

○子疾病子路請禱子曰有諸子路對曰有之

誅曰禱爾于上下神祇子曰丘之禱久矣

此時聖人御不例、疾、少、病、凡、と、バ、子、路、大、驚、祈、願、を、な、り、て、快、然、を、禱、と、思、ひ、

古、の、誅、の、文、の、中、に、平、生、の、罪、を、懺、悔、し、再、病、を、上、神、下、祇、に、禱、と、の、詞、あ、ま、バ、古、來、

置、て、先、其、の、儀、ハ、及、ち、さ、し、と、な、り、此、段、子、路、あ、ら、り、聖、人、を、大、切、に、思、ひ、奉、り、

聖、人、の、御、意、に、達、せ、ざ、り、と、夫、聖、人、の、德、天、地、と、齊、く、仁、心、廣、大、と、い、て、言、ハ、法、と、

一、致、す、て、何、れ、を、聖、人、と、い、ひ、見、可、う、め、を、

神、と、い、い、何、れ、人、知、の、測、知、る、者、と、あ、る、ぞ、

○子曰奢則不孫儉則固與其不孫也寧固



其不孫者、人與ハ  
寧固ナク

君子ハ垣ク小蕩蕩  
小人ハ長ク小戚

戚

子温クテ厲

威クテ猛クテ不

恭クテ安

泰伯第八

子曰、まハク泰伯ハ其

至徳ト謂可已三

天下ニ以テ讓ル民得

テ稱さスと無

凡て吾を爲者ハ物と不孫なり又儉約なる者ハ擧て挙動固こと云ふものなり何れ中庸  
なる病なり然れども一方をこらざるは其不孫身持を爲與ハ寧より固とも身をこ  
へる方が勝と仰せらるる東照神廟の御詞も身の程を知ると仰らるる  
上を見らるるの仰あり世は是を五字七字の御教と傳へ待らるる則ち此の意なり

○子曰君子坦蕩蕩小人長戚戚上は立君子と云ふは

○子温而厲威而不猛恭而安此章ハ御門人衆常ハ聖人の

てかくハ書載るハ聖人の御氣象温和とて春の暖なる晴くさ天氣の如  
然れども物の次断果ハ易と問ハ髪を入るを厲といふて光くようなる御  
權威ありて却て猛く荒く布風を見奉まつる人ハ恭敬をほく  
のどと却て人も容心よなく心安く親付さる様こそあり

泰伯第八

子曰泰伯其可謂至徳也已矣三以天下讓民

無得而稱焉此段心を澄て見へるなり至徳といふ者ハ誠ハ天朝の道ハ合

歴の子文王に至て天下三分の二を保服せしめ文王の子武王に至て遂に殷  
の紂王の惡逆無道なるを除て天下を取らるる大徳仁聖なりて最とも武王に至  
て万民の苦くを救はるる天下の爲に已と得たりて天下の主となり万民を仰  
ぎ尊む仁君なりといふ泰伯を至徳なりと仰ありふらるる子細ハ寂初大王の時  
に殷を除の志あり然る小泰伯の心臣として君を討へる事とて從ハズ遂に身  
を避て跡を隠し以上三とび國を讓て世の望を断らるる四人なる大徳賢明の方なると  
も天道自然の道を踏ハハ泰伯一のこなきは此上もなき至徳なりと仰らるる是を天  
下の人とて落し稱美ありさるハ口惜き事なりとありて聖人ありハ褒義あり  
至徳とハ聖徳至極上なきをいふ右大王も賢人なり文王武王より人の知らるる然る  
未と何事もなき大王の時已に殷を討らるる志あり少くも南より小とも泰伯  
ハ父は從ハズ跡をかく後世の辱を逃らるる聖人これを至徳と稱らるる聖人  
の深意なる格別の論なり凡そ天地の間君臣の道を至て重しとて天地上下君臣尊  
卑の義理なりして其他何の道も立らるる天朝の  
中華西夷一上も事ハ此の外なきを以てなり

○子曰恭而無禮則勞慎而無禮則蕙勇而無

禮則亂直而無禮則絞禮ハ物を正し人道の過るるなく不及と

恭まハクハ礼を不知ハ則ち心勞なりと慎むとをわけて礼  
を知らるる礼を好て礼を知らるる勇氣を好て礼を知らるるバ擧て場所を弁

て礼無とバ則ハち絞  
君子親ヲ篤ルレバ則  
ハち民仁を興モ故舊  
遺不バ則ハち民偷の  
り不

曾子疾有門弟子之私  
て曰く予は足を敷け  
予は手と敷け詩云  
く戦戦兢兢と  
深淵に臨むが如く薄  
氷を履が如く今  
て後吾免るを知  
夫小子

言三

君子篤於親則民興於仁故舊  
不遺則民不偷  
君子篤於親則民興於仁故舊  
不遺則民不偷  
君子篤於親則民興於仁故舊  
不遺則民不偷

曾子有疾召門弟子曰啟予足啟予手詩云

戰戰兢兢如臨深淵如履薄冰而今而後吾知

免夫小子

此段曾子の疾重の時門弟子を召て細く小教て曰く衣を敷き手  
足を敷む此身は父母より受得たる大則の身なり全  
て死するを孝といふ凡そ人父母を愛ひ平生懼慎し  
て死するを孝といふ凡そ人父母を愛ひ平生懼慎し  
て死するを孝といふ凡そ人父母を愛ひ平生懼慎し

曾子有疾孟敬子問之

曾子曰鳥之將死其鳴也哀人之將死其言

也善

君子所貴乎道者三動容貌

斯遠暴慢矣正顏色斯近信矣出辭氣斯遠鄙

倍矣邊豆之事則有司存

曾子曰以能問於不能以多問於寡有若無

曾子曰以能問於不能以多問於寡有若無

曾子曰以能問於不能以多問於寡有若無

曾子曰以能問於不能以多問於寡有若無

蓬



受四升 高尺三寸

曾子の曰く能を以て不能問多きを以て寡きを問有ども無か如く實るも虚さか如く犯して校り不昔者吾友嘗て事し斯く徒か

實若虚犯而不校昔者吾友嘗從事於斯矣

曾子常無我なる工夫あり故に説く我假今多能なりとも能なき人よりの問是我多能なる心留さるなり我は知多し知寡き問我は徳あるも徳なきの如く實て有ども虚さか如くたると人より我を觸犯せりとも我は直なり彼は狂るなりと心を寄て計校ふるなりといふは有るなりとさやう小となりは無我のこころの行ひなり昔吾友の顔淵の斯事行ひしと仰らるなり

○曾子曰可以託六尺之孤可以寄百里之命

臨大節而不可奪也君子人與君子人也

凡そ人の行ひの善悪を以て名士といふは是常の人を異なるとはならず凡そ國家の爲に孤子を託り輔佐して下知を司り假令難義大節なる場は臨し志を屈せぬ心を奪はせぬ利を迷はせぬなり君子の人とも謂ふ實に君子の操行といふべし六尺の孤又八五尺の童子といふはその數のわづらひ通用して孤子をいふ義なり百里と八百里の一國をいふ

○曾子曰士不可以不弘毅任重而道遠

君子之人與君子の人也

仁以爲己任不亦重乎死而後已不亦遠乎

の士ハ心弘く毅して堪忍なりと有べし弘大なるれば任物の重く大なるを置るに堪忍なれば道の遠きを行はるは是故にかくハ説の也

○子曰興於詩立於禮成於樂

善を勧むの道なき人立於禮の善心を引興せしめハ則ち仁の事なり人本心の徳を取守ると至て重きことならざや何を道遠しといふなきハ身老て死するに至る操を堅く守るなりやとに遠く久きなきや此

○子曰民可使由之不可使知之

中く人として説法教化して知使する事あり徳礼とて御惠ありや政刑とて罰を以て惡をひく先ある自然と民齊く治るなりこれをバ由使といふなり

勇と好で貧を疾ハ乱

る人としして不仁

る之を疾と已甚

ハ乱也

如周公之才之美有

驕且吝さうならし使

其餘ハ觀て足不已

三年學で穀に至不

得易の不易

篤く信して學を好

く死を守りて道を

善く

知使といふと

○子曰。好勇疾貧亂也。人而不仁。疾之已甚。亂

也。血氣の勇を出し人負間布など乱の本なり。不仁なる我身

○子曰。如有周公之才之美。使驕且吝。其餘不

足觀也已。言心ハたとへば周公の才能あり。人ハ驕ふ。且

足觀也已。言心ハたとへば周公の才能あり。人ハ驕ふ。且

○子曰。三年學。不至於穀。不易得也。

○子曰。篤信好學。守死善道。學問を好むと能ハざらんと

○子曰。篤信好學。守死善道。學問を好むと能ハざらんと

○子曰。篤信好學。守死善道。學問を好むと能ハざらんと

○子曰。篤信好學。守死善道。學問を好むと能ハざらんと

○子曰。篤信好學。守死善道。學問を好むと能ハざらんと

○子曰。篤信好學。守死善道。學問を好むと能ハざらんと

○子曰。篤信好學。守死善道。學問を好むと能ハざらんと

○子曰。篤信好學。守死善道。學問を好むと能ハざらんと

○子曰。篤信好學。守死善道。學問を好むと能ハざらんと

○子曰。篤信好學。守死善道。學問を好むと能ハざらんと

○子曰。篤信好學。守死善道。學問を好むと能ハざらんと

○子曰。篤信好學。守死善道。學問を好むと能ハざらんと

○子曰。篤信好學。守死善道。學問を好むと能ハざらんと

○子曰。篤信好學。守死善道。學問を好むと能ハざらんと

○子曰。篤信好學。守死善道。學問を好むと能ハざらんと

○子曰。篤信好學。守死善道。學問を好むと能ハざらんと

○子曰。篤信好學。守死善道。學問を好むと能ハざらんと

○子曰。篤信好學。守死善道。學問を好むと能ハざらんと

○子曰。篤信好學。守死善道。學問を好むと能ハざらんと

○子曰。篤信好學。守死善道。學問を好むと能ハざらんと

不ハ吾之を知不

学ハ及バ不ク如

猶之を失なふを恐る

巍巍乎々舜禹之

天下を有而して與

わく不

大なる哉堯之君爲巍

巍乎々唯天大なる

と爲唯堯之則とる

蕩蕩乎とて民能

名を無

巍巍乎々其成功

有煥乎々其文章有

舜臣五人有て天下治

す

武王の曰く予に乱臣

十人有

孔子曰まハく才難其

然不平唐虞之際斯

於て盛なりと爲婦人

有九人而已

天下三分にして

其二を有以て殷一服

事を周之徳ハ其至徳

と謂可已

禹ハ吾間然とると無

飲食之非して孝を

鬼神に致して衣服を

悪して美を蔽是

其一曲の乱るてその面白き意味言むもの

○子曰。狂而不直。侗而不愿。慥慥而不信。吾不

知之矣。天竺の釈迦氏の詞。無縁の衆生ハ濟度難とあり。狂といふハ

高驕して知恵自慢。我保なるその上正直なれと侗といふハ愚癡

無知なる者。其の上愿なく。物もむづめ。無の性と慥々トハ無藝無能の者。此

物を信とす。事なく。受ぬとハ聖人も致方のあせざり。一や吾も愉や

を知らず。仰

○子曰。學如不及。猶恐失之。學問の道。乃專要なり。學問を爲の

行不及といひ。めまでもあめておぼむべ。其ハ光陰を惜。何事をもとり失るハ

ん。と恐る。若明日を待てとの詞。甚悪き事なり。と程子先生ののひ

○子曰。巍巍乎舜禹之有天下也。而不與焉。舜帝禹王。古代に在て至徳を施。四夷八蛮服。仁徳の大なる方

民の戴く所。誠ハ高大無邊なるを巍々乎といふ。然とも禹王の心ハ天子といふと

與る。天子の重なる君の心を羨目とも

め。民を憐む事をこころは龍ぬ

○子曰。大哉。堯之爲君也。巍巍乎。唯天爲大。唯

堯則之。蕩蕩乎。民無能名焉。誠ハ大なる哉。堯帝の天下に君せぬ。仁徳高大巍々なり。凡そ大なるとそる者

唯天道の徳なり。然る堯帝の御徳唯ハ之。則て蕩蕩乎。人もよ。普ハ名付やの詞

とぞ。巍巍乎。其有成功也。煥乎。其有文章

とぞ。誠ハ聖人の功德を施。煥々として巍巍然なり

○舜有臣五人。而天下治。古の明君。天下を治む。ハ賢者を奉

第一の義なり。右舜帝の天下に大徳あり。其下ハ禹稷臯陶益等五人の賢人を用

ひぬ。との義なり。天朝の始祖。大神天照皇の御宇ハ最とも大聖至徳比をべき事

なり。賢徳を用ひぬ。その徳日光に配。奉まつ。凡そ賢臣八百と傳

中。五賢の内。攝政天兒屋根公を重。後世までも三社と稱。天位一分

配。の心その外。天朝並ハ萬邦共ハ明君の代ハ賢人を用ひ。事歴代算。一

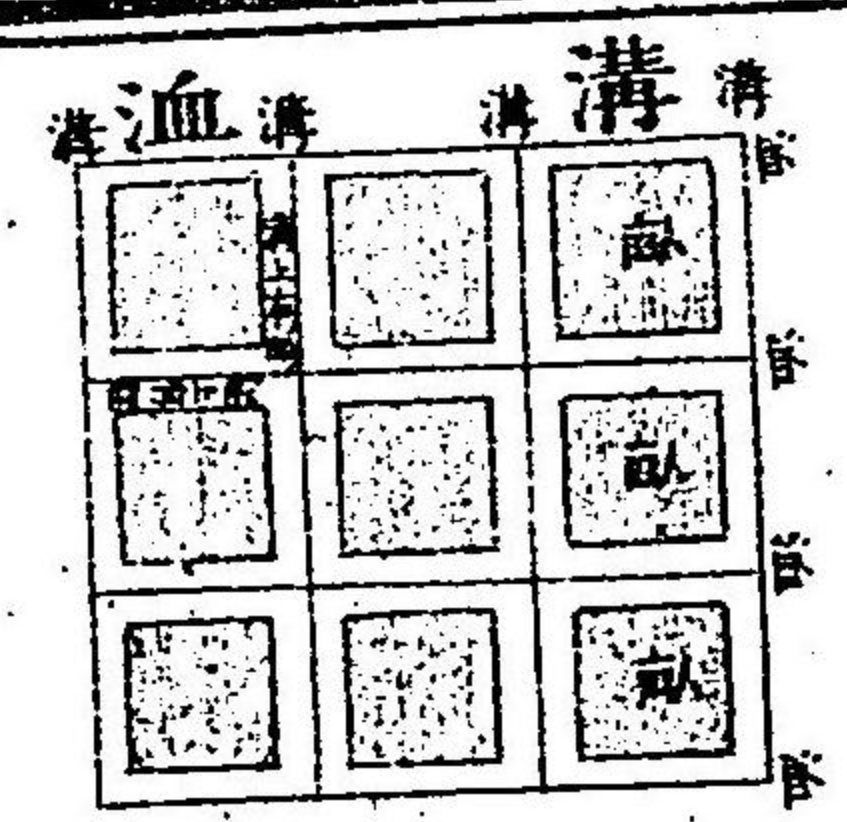
武王曰。予有亂臣十人。周の武王の爲。世を輔治するの臣十人

あり。と云。亂の字を書。ハ

論語

二十

禹ハ吾間然（無）



論語

孔子曰才難不其然乎唐虞之

際於斯為盛有婦人焉九人而已

謂至德也已矣

三分天下有其二以服事殷周之德其可

謂至德也已矣

○子曰禹吾無間然矣非飲食而致孝乎鬼神

惡衣服而致美乎黻冕卑宮室而盡力乎溝洫

禹吾無間然矣

子罕第九

子罕言利與命與仁

達巷黨人曰大哉孔子博學而無所成名

子罕第九

子罕言利與命與仁

達巷黨人曰大哉孔子博學而無所成名

子罕第九

子罕言利與命與仁

達巷黨人曰大哉孔子博學而無所成名

子罕第九

子罕言利與命與仁

達巷黨人曰大哉孔子博學而無所成名

子罕第九

論語

子之を聞て門弟子... 謂て曰はく吾何を... 執ん御を執ん乎射を... 執乎吾ハ御を執ん

麻冕ハ礼也今純ハ儉... なる吾ハ衆ニ從ハ

下ニ拜もハ礼也今... 上ニ拜もハ泰也衆... 一違と雖ども吾ハ下... に從ハ

子四を絶意母必母固... 母我母

子匡ハ良ヲ曰ハク... 文王既ハ没モ文茲ハ... 在不乎

天之將ハ斯文を喪ス... んと將後死の者斯文... 一與らざる得ハ天之... 未ハ斯文を喪ス不匡... 人其予を如何

子聞之謂門弟子曰吾何執執御乎執射乎吾... 執御矣聖人聞て曰はく吾何を執御乎執射乎吾を執御は馬を御法なり射ハ弓を射の法なり吾之を知り此二ツの中を執

○子曰麻冕禮也今也純儉吾從衆

古礼の冠ハ麻を積て細く漆三十外の經糸を用ゆ其一外といひ八十縷なるをバ大ニ... 手間をうけて古礼なるものも奢らざるも始より細糸を以て爲と手間入

拜下禮也今拜乎上泰也雖違衆吾從下

君臣の間尊卑上下の道最とも嚴重なる也又猶天地の道... 君臣の間尊卑上下の道最とも嚴重なる也又猶天地の道... 假令世上の風... 衆の人ハ違とも聖人ハ堂下の礼を守らん天地の間君臣を第一義とて

○子絶四母意母必母固母我

人四ツの病あり之を立さざらんとなり一ツハ私意とて自身の存トありを... 用ゆニツハ期必とハ私の意を立んとするの定るをいふ三ツハ固滞とハ我思の如

○子畏於匡曰文王既没文不在茲乎

序ハ速く如く人違て聖人を取圍りその時從者大ニ畏らるる故聖人説示... 御詞左の如く聖人の道ハ天道ニ則たり人間行へざるの道禮祭制度

天之將喪斯文也後死者不得與於... 斯文也天之未喪斯文也匡人其如予何

天より人間の此道を絶奪し... 斯文也天之未喪斯文也匡人其如予何

○大宰問於子貢曰。夫子聖者與。何其多能也。

大宰といひ官の人聖人の聖徳を以て多能なるを以て聖と心得。子貢の問なり。誠。夫子ハ聖人とこそ思はれて多能なる事のみ。多能なり。

子貢曰。固天縱之將聖。又多能也。

子貢答て曰く。夫子の大徳なるを以て天固より縦に無量の徳を與ふ事。將と心得。子貢曰く。固天縦之將聖。又多能也。

宰知我乎。吾少也賤。故多能鄙事。君子多乎哉。

宰ハ我を評する者。少ハ賤なり。故ハ能我を知るの故。吾少の時に身。多能多能。君子多乎哉。

不多也。牢曰。子云。吾不試。故藝。

無を以て君子を評する者。少ハ賤なり。故ハ能我を知るの故。吾少の時に身。多能多能。君子多乎哉。

○子曰。吾有知乎哉。無知也。有鄙夫問於我。空

吾知と有ん哉。知と無。鄙夫有我の問と。空如く。我其兩端を叩て焉。竭也。

空如く。我其兩端を叩て焉。竭也。鳳鳥至。不河圖。吾已矣夫。

無思。鄙人。我。就て學問。バた。一向。理の空。空。鳳鳥至。不河圖。吾已矣夫。

空如也。我叩其兩端而竭焉。

空如く。我其兩端を叩て焉。竭也。鳳鳥至。不河圖。吾已矣夫。

○子曰。鳳鳥不至。河不出圖。吾已矣夫。

當世周の未。鳳鳥。河。不出圖。吾已矣夫。

○子見齊衰者。冕衣裳者。與。瞽者。見之。雖少。必

作過之。必趨。

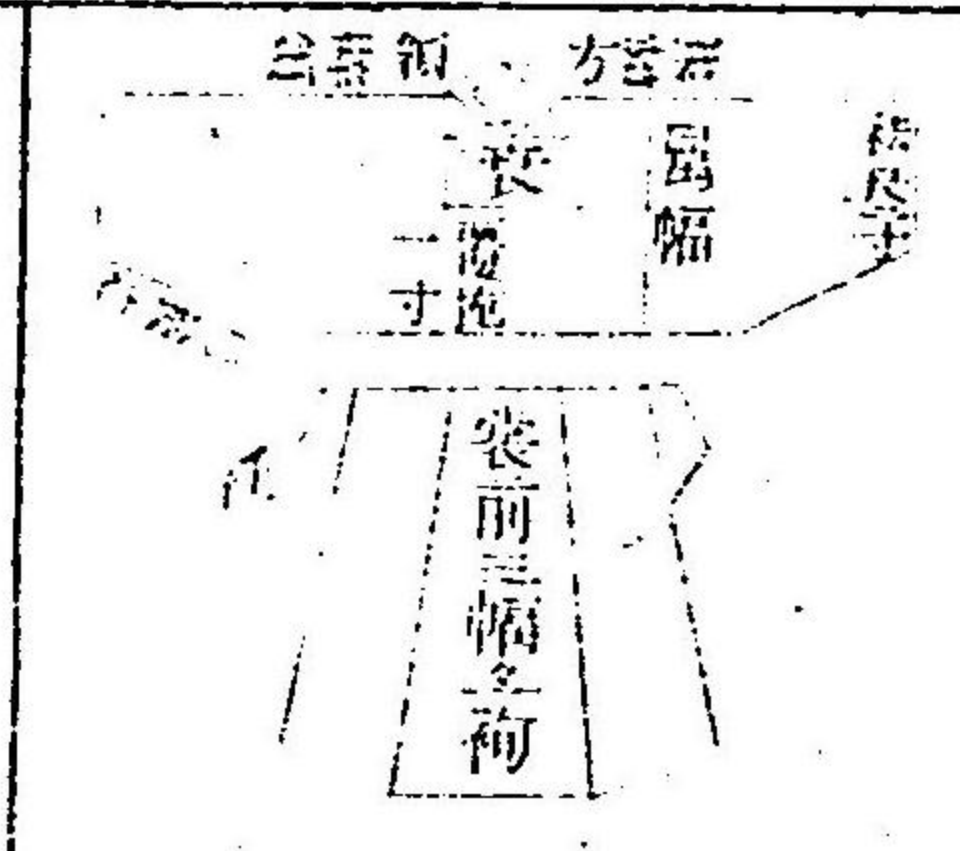
齊衰。冕衣裳。與。瞽者。見之。雖少。必作過之。必趨。

○子見齊衰者。冕衣裳者。與。瞽者。見之。雖少。必

作過之。必趨。

○子見齊衰者。冕衣裳者。與。瞽者。見之。雖少。必

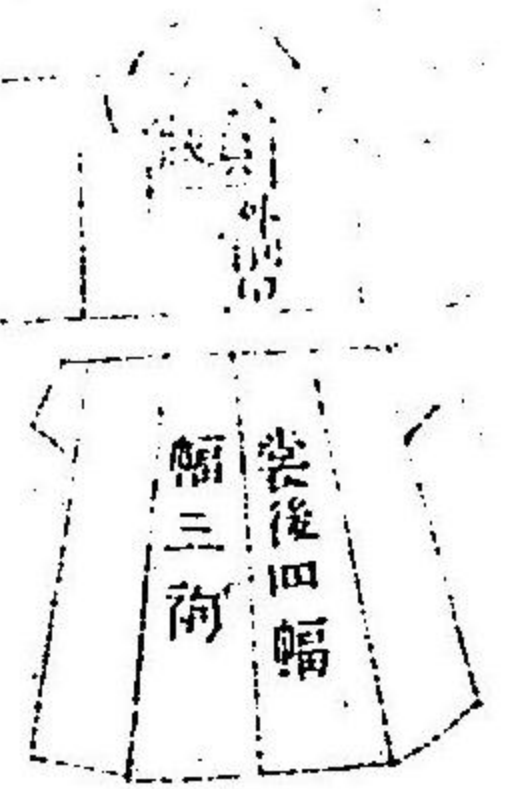
作過之。必趨。



空如く。我其兩端を叩て焉。竭也。鳳鳥至。不河圖。吾已矣夫。

大宰子貢小問て曰く。夫子ハ聖者與。何其多能也。





顏淵喟然曰仰之彌高鑽之彌堅瞻之在忽焉也夫子循循然以善人誘我博我以文以約我以禮

論語

○顏淵喟然歎曰仰之彌高鑽之彌堅瞻之在

前忽焉在後聖人の大徳高大無邊堅確光輝議論を以て

約我以禮賦聖人の御教其妙なる事人を以て各才智を達せしめ徳を成就せしむる事夫子循循然善誘人博我以文

約我以禮賦聖人の御教其妙なる事人を以て各才智を達せしめ徳を成就せしむる事

欲罷不能既竭吾才如有所立右文を學禮を約するの勸夫子の教の妙なるに於てたゞ志ざりて已まざるを以て

卓爾雖欲從之未由也已右文を學禮を約するの勸夫子の教の妙なるに於てたゞ志ざりて已まざるを以て

卓爾雖欲從之未由也已右文を學禮を約するの勸夫子の教の妙なるに於てたゞ志ざりて已まざるを以て

○子疾病子路使門人爲臣聖人の御心地例なき病とハ疾身を退て閑居なり然るに子路の心聖人をためむるに尊と欲候に重せらるるの心

病間曰久矣哉由之行詐也無臣而爲有臣吾誰欺欺天乎聖人の病少間の心

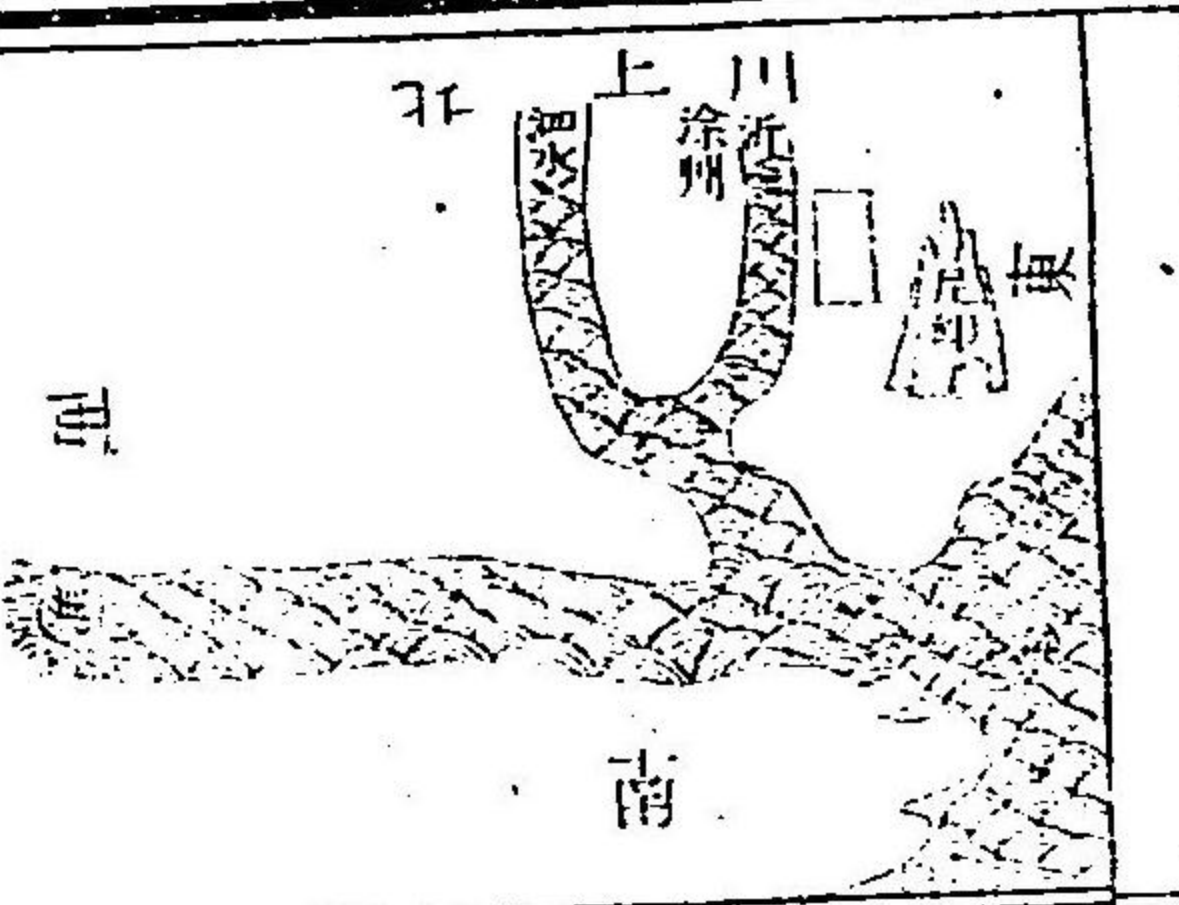
且予與其死於臣之手也無寧死於二三子之手乎且予縱不得大葬予死於道

路乎且我假令臣下ありとも其手は死にせざるを得ざるも義理に叶ふを樂む道路の葬といへ

○子貢曰有美玉於斯韞匱而藏諸求善賈而沽之者

○子貢曰有美玉於斯韞匱而藏諸求善賈而沽之者





吾未と徳を好むと色を好むが如き者を見未  
 譬巴山を爲が如  
 未一簣と成未止ハ吾  
 止也譬巴平地の如  
 一簣と覆と雖とも進  
 ハ吾往也

論語

ハ凡て天地陰陽の萬物を生じ、限なきゆへ有情無心なる物其間、始てハ其終まで  
 ありてハ其始する只一ツの息の滞りなき事斯の如き夫との如きは、最とも  
 見て見やせく説のふ者ハ水は如ハ、誠は天地の道聖人の化人の行ひ、此  
 外なるで讀者ハ、その所最とも深く敬してその意を味はめべき事なり

○子曰吾未見好徳如好色者也

味を好む耳は声を好む類なる色を好むといふは、心も動かし、最も目も差  
 色を好むは、口も舌も古より甚し、いふは賈賤、て身の暇なき者、ても思ひの  
 外なる事のあると、凡て然るなり、聖人も徳を好む  
 そのこころの斯の如くなるを見未との如し

○子曰譬如爲山未成一簣止吾止也譬如平

地雖覆一簣進吾往也  
 凡そ力を用功を成と欲する者、今少しに  
 退るハ惜き事なり、只一

○子曰語之而不惰者其回也與

顔子、聖人は道に御人  
 なる、聖人の御と

たとく巴山を爲は、今唯一簣の土を置、巴山成就せむきを夫を成不ハ惜き事なり、只一  
 簣と覆と雖とも進ハ吾往也といふ者なり、僅  
 一簣と覆と雖とも進ハ吾往也といふ者なり、僅  
 一簣と覆と雖とも進ハ吾往也といふ者なり、僅

之を語て情ら不者ハ  
 其回與

子顔淵を謂て曰まハ  
 惜ひ乎吾其進むを  
 見ら未其止を見未

苗に一て秀不者有  
 夫秀て實不者有夫

後世畏可なり焉んぞ  
 來者之今は如不を知  
 ん四十五十ハ一て  
 聞と無ハ斯亦畏る  
 に足不已

○子謂顔淵曰惜乎吾見其進也未見其止也

聖人深く顔子を惜ひて其徳を称し、只顔子  
 の其徳の進を見て其徳の退る止を見らハ、とを

○子曰苗而不秀者有矣夫秀而不實者有矣

夫、學問を爲て成就せむと不爲とあり、まの成就せむと、色く品のあり、たとく  
 苗の時芽を出のて秀せ、て枯のり、まの秀たのて、實する者

○子曰後生可畏焉知來者之不如今也四十五

十而無聞焉斯亦不足畏也已

後の世よいのなる者大徳の人しつ出へ、計り、後世も徳の秀る人の出  
 へ、と思へ、實も耻畏べき事なり、まの馬、此來者ハ今日の人ハ、如不と心を

ゆるその理、め、んや其内人も四十五ハ、盛徳の時節なり  
 其時節、及で徳の聞る人ハ、斯亦畏不足る者なり

法語之言ハ能從ぐ  
と無らん乎之を改む  
る貴と爲異與  
之言ハ能説こがと無  
らん乎之を釋る貴  
と爲説こんで釋不從  
ぐめて改め不吾之を  
如何ともする未已

忠信を主とせ已小如  
不者を友とせると母  
と過てハ改むるに憚  
るを勿  
三軍も帥を奪可  
匹夫も志を奪  
可う不

言言

○子曰法語之言能無從乎改之爲貴異與之  
言能無說乎釋之爲貴說而不釋從而不改吾

未如之何也已矣法語之言ハ詞正く直なる教諫を入るる凡そ  
法あるの詞ハ受從ハざる者あらんや然とも之を

聞て忽ち改むるを以てこそ貴と異與之言とい人ハ逆ハせ  
それより方便を以て正しき場へ道引をいれ誰よりも耳小逆さ  
く思て順ざる者なり然とも其意の由來を釋來ハ依てこそ本道をも示さるるの  
なり若只已ケ意に順を説のこいして其義理を釋バ吾もや如何とも仕方  
事と

○子曰主忠信毋友不如己者過則勿憚改

右ハ前の學而の  
篇に出る

○子曰三軍可奪帥也匹夫不可奪志也

三軍ハ三万七千五百人にて只多くの人をかかハいひのなり誠ハ多人數ハその勢  
猛して計あり然とも一旦一和せざれば心を離とさハ其將帥をも奪得べ

敵る縕袍を衣て狐貉  
を衣者與立て耻不者  
ハ其由與  
伎不求り不何を用て  
臧ら不らん

子路身を終ま之を  
誦も子曰ハく是道  
何ぞ以て臧とまらに  
足ん

歳寒して然して  
後ハ松柏之後彫を  
知

匹夫一人にして其志を奪て取むるはなざる者  
なりと仰らるは是故ハ君子ハ志を貴て道を守るなり

○子曰衣敝緼袍與衣狐貉者立而不耻者其

由也與敵る縕袍を着て狐の裘衣として貴き衣裳衣類類する人と立並でこ  
ろ耻らざる者ハ子路の君子ハ徳を貴てその外を恥ぢ

不伎不求何用不臧子路の爲人を譽め又此詩を引て重て称義  
と死ハ深く心耻るものなり或ハ人の富るを疾て伎害の心あるものなりハ曰く貧  
さを厭て求り詭うの心ある者なり子路ハ富るの場ハハ思ひも奇然とバ

子路終身誦之子曰是道也何足以

臧子路之を聞て深く喜で此詩を終身誦んとあつて聖人聞てその  
學問は進むの限ある事を戒め益々勤むる由を仰せりなり誠は是道も

○子曰歲寒然後知松柏之後彫也

人君子と口無事なる間ハ誠ハ異なる事なり似て然とも忠孝と與まハ貧  
富の間操節を見至て異なるを知るべきなり實ハ草木多中何も異なることなき

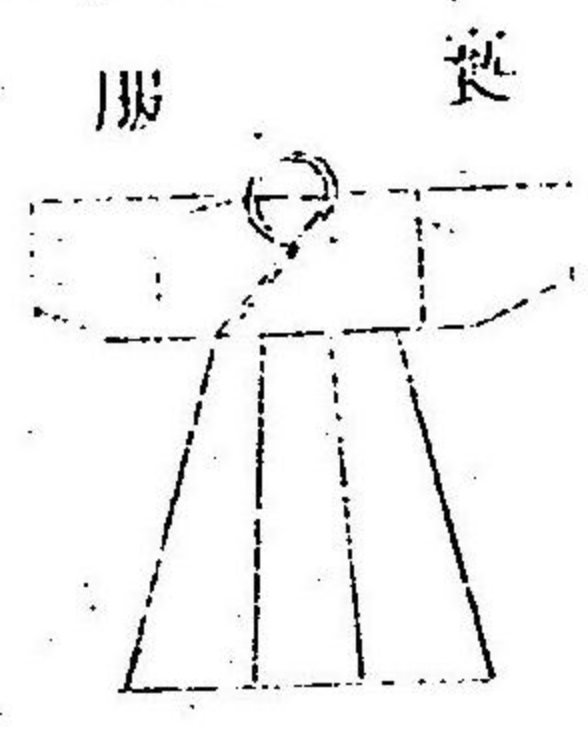
命語二



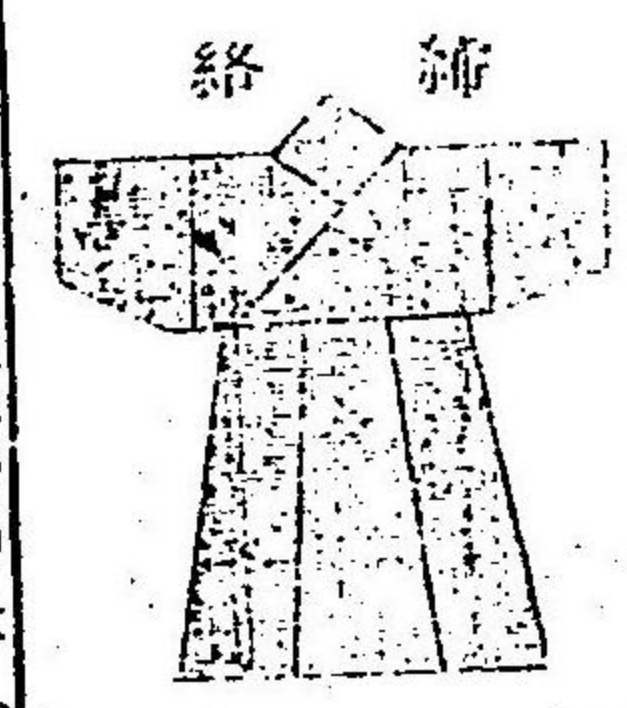




紅紫ハ以て裏の服と爲不



暑小當て疹の締裕必  
ぞ表よりて之を出



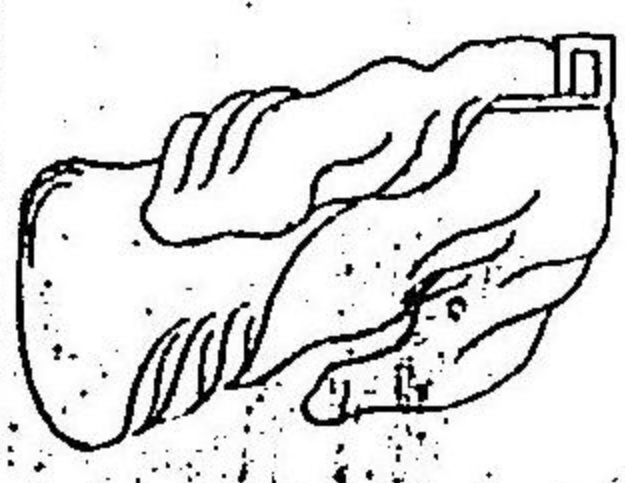
緇衣ハハ羔裘素衣ハ  
ハ麁裘黃衣ハハ狐裘



右の袂を短くし



必らず羔裘有長一身  
有半



衣 襪  
糞浴之厚以て居  
卷を去て佩不所無

去喪無所不佩 事の時ハ佩あり種々の道具を入る王を  
起居玉の音ありて正し相子

非帷裳必殺之 帷裳ハ朝廷へ出仕の服を  
旁に縫目なくして

羔裘玄冠不以弔 右の羔裘并玄冠むらむら  
目出度服なり是をめし

吉月必朝服而朝 吉月ハ朔日なり其日ハ朝服  
冠冕裳

齊必有明衣布 齊の時ハ別し明衣布を  
衣類を著せし汚るる布

齊必變食居必遷 齊の時ハ別し明衣布を  
衣類を著せし汚るる布

坐 齊の間ハ惡き匂ひ不淨の物を食むる酒肉五  
辛等なり居間を遷て常の居どころと異し

食不厭精膾不厭細 飯隨分しとむる精白く  
膾ハ隨分と厭なく細く

食不食失飪不食不時不食 食物の饒て饒てハ食  
魚肉の饒て敗るるハ味を

割不正不食不得其醬不食 魚肉野菜一切の食  
物其庖丁割り正し

肉雖多不使勝食 食事の肉飯より多きものハ害あり飯の氣勝る  
酒井市ハ購等ハ食

沽酒市脯不食 沽酒ハ酒井市ハ購等ハ食  
酒井市ハ購等ハ食

不撤薑食 薑ハ臭氣穢惡を  
被去く

祭於公不  
祭於公不

祭於公不  
祭於公不

祭於公不  
祭於公不

祭於公不  
祭於公不

祭於公不  
祭於公不

祭於公不  
祭於公不

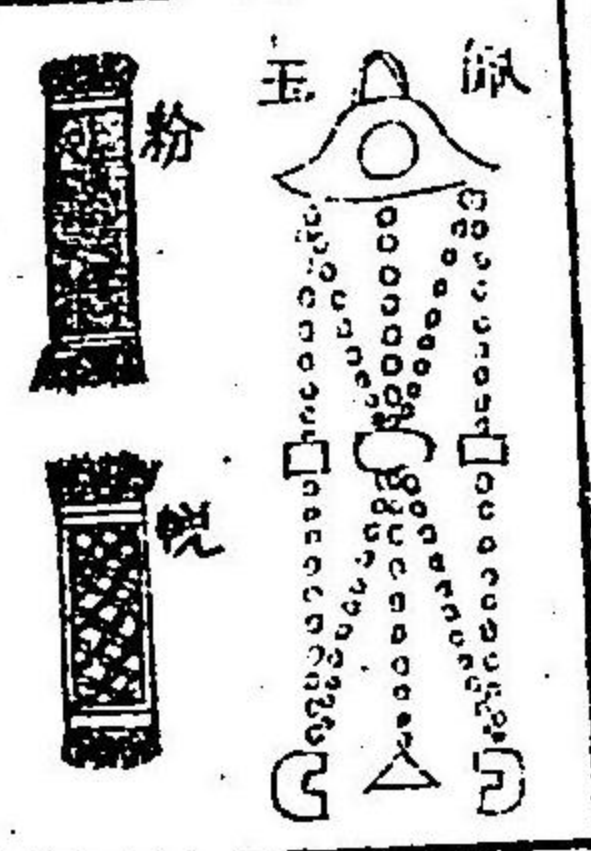
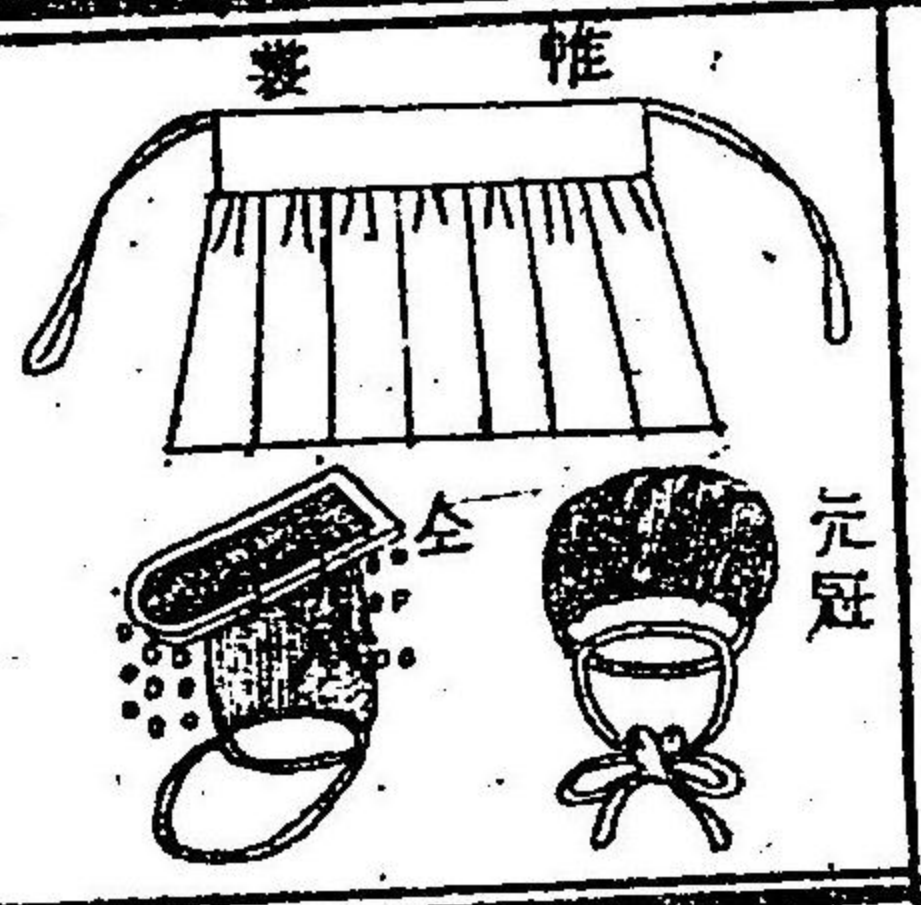
祭於公不  
祭於公不

祭於公不  
祭於公不

祭於公不  
祭於公不

祭於公不  
祭於公不





帷裳一非ざとハ必  
之を殺そ

元冠

三節

食不語寢不音食ハ言ハ寝ハ音 雖蔬食菜羹瓜祭必齊如也雖蔬食菜羹瓜祭必齊如也

○君賜食必正席先嘗之君賜腥必熟而薦之

○君賜生必畜之君賜生必畜之

○鄉人飲酒杖者出期出矣聖人鄉人と酒宴飲食をなす

○問人於他邦再拜而送之人をして以て他邦へ問はんと

○未達不敢嘗聖人御不例の時魯の大

○廢焚子退朝曰傷人乎不問馬聖人朝庭へ出ると跡して御馬室焼失あり

○先飯君の側は侍食遊さるる時君ハ右飲食の祭を

○侍食於君君祭侍食於君君祭

羔裘女冠以て甲せ不



吉月必ら朝服

齊い必ら明衣有

布をそ



齊い必ら食を

ぞ居るに必ら坐

食ハ精を厭ハ不

細を厭ハ不

食の饒一七

魚の饒して肉敗  
食を不色悪ハ食を不  
臭悪ハ食を不  
失ハ食を不時も不  
ハ食を不

割り正しハ不  
食を不其體を得ハ  
食を不

肉多しと雖も食の  
氣は勝使不惟酒量無  
乱及ハ不

沽酒市脯食を不  
薑を撤不して食を  
多く食を不

公に祭て肉と宿不祭  
肉ハ三日と出さ不三

日を出さハ之を食を  
不  
食して語不寢て言  
不  
蔬食菜羹と雖ども瓜  
を祭る必らど齊如  
り  
席正し不ハ坐せ不  
郷人の飲酒杖者出さ  
ハ斯し出  
郷人の儼し朝服  
て阼階立

疾君視之東首加朝服拖紳聖人御不例の時君安否を問來の時  
引掛その上へ紳帯を腰し引君一途君命召不俟駕行矣  
引掛その上へ紳帯を腰し引君一途君命召不俟駕行矣

○入太廟每事問前見へん

○朋友死無所歸曰於我殯若朋友死して其一族なるハ於  
て見捨りて我家に於て殯まんとしと仰りて三日  
の間ハ棺に入て死せざる如くして殯を待てて人の集會を待となり

朋友之饋雖車馬非祭肉不拜朋友より進物を饋まると時ハたと車馬の如き重きものといへども  
も拜せざる祭は供物ハ鬼神と與ふる事なりハ祭物を拜しぬ

○寝不尸居不容寝姿は慎み坐り人の尸のごとく寝て不可  
なりと見苦  
さ者となり

見齊衰者雖狎必變見冕者與瞽者雖褻必  
以貌父母の喪中にある齊衰を着せし人を見てハ常に狎  
白を妻改て應對なるとん人を見てハ常に狎

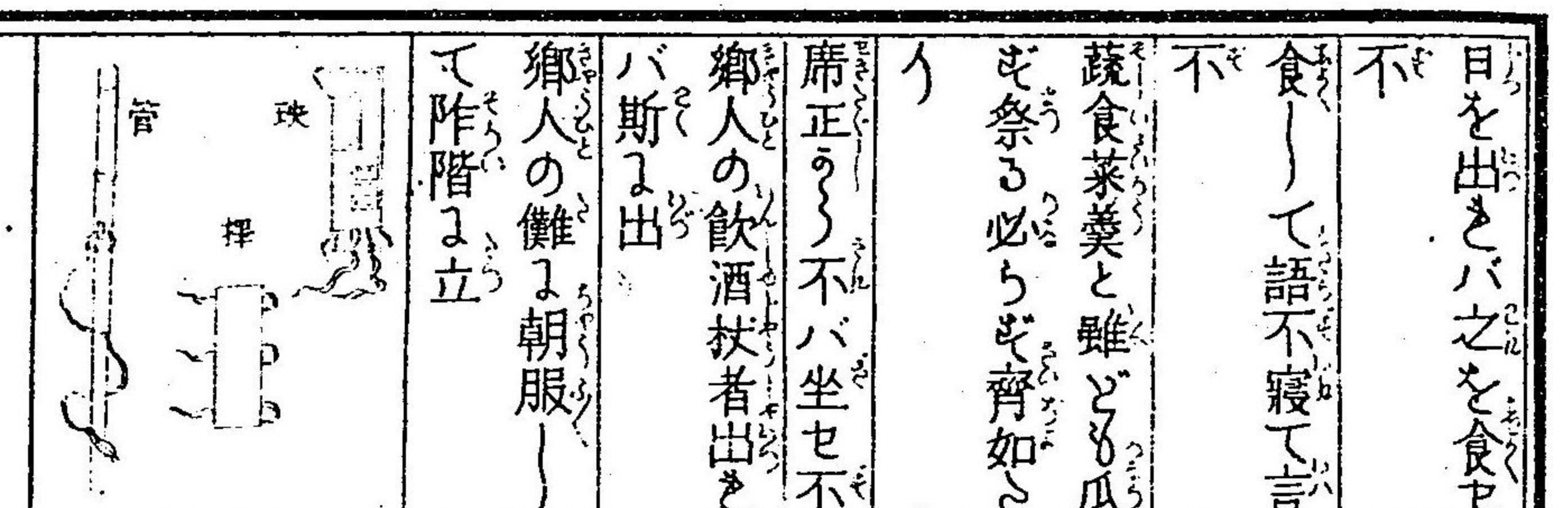
負版者聖人凶服を着せし者と負版とて國々の万民の數を版に記せしを  
負て通る行違ひの時ハ車中にて式礼となりぬ版ハ宗門帖の如

有盛饌必變色而作人より盛なる饌供を受時ハ必色容を改変て  
作て礼を施しぬ是主人の馳走の意を拜

迅雷風烈必變鳴雷分て迅しく風烈ハ必色容を改め  
衣冠を正しぬ是天地父母  
の怒を敬しぬ

升車必正立執綏車に升りぬの時ハ身体を正し  
立なる時ハ車綏を執て外なる

車中不内顧不疾言不親指車の中にして左右方をふり顧み  
と有間布なり疾しく言ひぬ

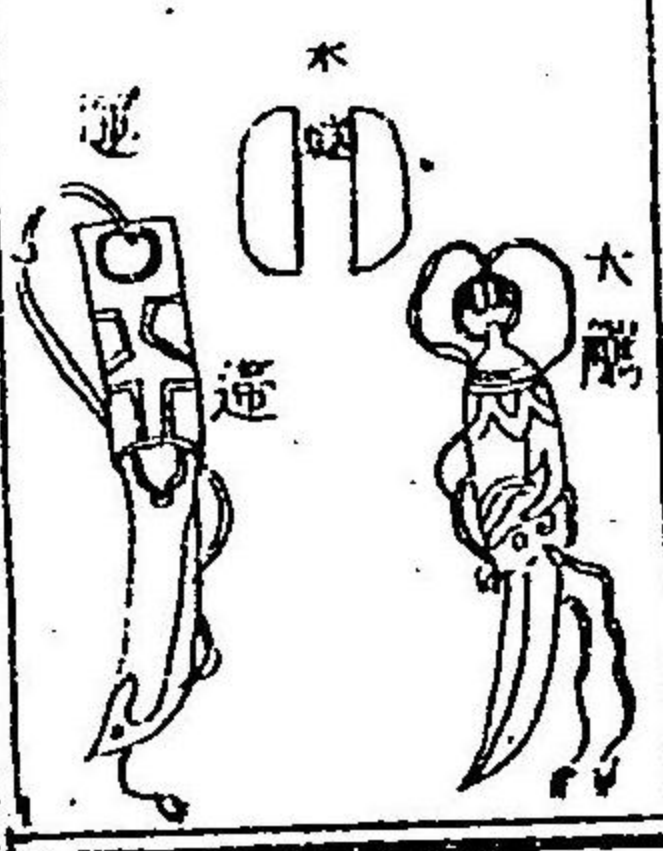


人を他邦に問は再拜して之を送る

康子藥を饋ふ拜して之を受曰まはく丘未だ達せ未敢て嘗不

廢焚より子朝を退ぞひて曰まはく人を傷なす乎馬を問不

大鷹 運



君食を賜は必らば席を正して先之を嘗君腥を賜は必らば熟して之を薦む君生を賜は必らば之を畜なす

君は待食するは君祭は先飯也疾て君之を視は東首して朝服を加て紳を拖

うらむ親を指さすなり

○色斯舉矣翔而後集

此段ハ他の文の續として跡先文章の落字ありん此心ハそれ鳥といふ者ハ人の氣色を見て飛舉あつて翔て色相

を見て又降て集との義なり

曰山梁雌雉時哉時哉子路共

之三嗅而作 雌雉關々として鳴るる故は聖人稱羨なり

ハ殊に感なるのみならず時なる哉くと仰せあり然るは子路の事を聞違て聖人之を好むのみならずとこれに執て共なり元聖人の意あり然とれくと

も無氣なるは雉三つとてあつて稱羨なり

論語卷之二終

君命して召せば駕を俟不して行

大廟に入て事毎に問

朋友死して歸する所ろ無曰まはく我を於て殯せよ

朋友之饋りのハ車馬と雖も祭肉は非ざれば拜せ不

寢て尸せ不居は容せ不

齊衰の者を見押たると雖も必らば變ぢ冕者と警者を見衰たると雖も必らば貌を以て也

凶服の者之を式を負版の者に式せ

盛饌有は必らば色を變して作

迅雷は風烈くは必らば變ぢ

車は升は必らば正しく立て緩て執

車中内は顧み不疾言はハも親く指さく不

色して斯舉翔まひて而して後集

曰まはく山梁の雌雉時なる哉時なる哉子路之を共三つとて嗅て作

論語卷之二終

三  
三  
三

